

サムエル記第一 (4)

「ハンナの賛歌」

1 サム 2 : 1~10

1. 文脈の確認

I. 王政に向けた準備 (1~9 章)

A. サムエルの誕生と幼少期 (1 章)

B. ハンナの賛歌 (2 : 1~10)

2. 注目すべき点

- (1) 士師記の時代の末期、イスラエルは政治的にも霊的にも、混乱状態にあった。
- (2) 新しい時代を導くのは、預言者サムエルである。
- (3) ハンナは、信仰によって息子を得た。
- (4) 乳離れした息子を【主】に委ねたハンナは、賛歌を詠んだ。
- (5) 神から預言的な内容を含むことばを与えられ、それを賛歌として語った。

命題：ハンナの賛歌は感謝と預言を含む。

この賛歌の3つのステップを学ぶとそれが分かる。

I. 個人的な救いの喜び (1~2 節)

1. 1 節

1Sa2:1 ハンナは祈った。／「私の心は【主】にあって大いに喜び、／私の角は【主】によって高く上がります。／私の口は敵に向かって大きく開きます。／私があなただの救いを喜ぶからです。

(1) 段階的対句

①心が大いに喜ぶ (内面の喜び)

* 主語は「私の心」であり、全人的喜びを表現している。

②角が高く上げる (力の回復)

* 主語は「私の角」であり、力と尊厳の回復を示している。

③口が大きく開く (勝利の表現)

* 主語は「私の口」であり、それが大きく開くのは勝利の宣言・賛美の比喩。

* 「敵」は、ペニンナを含む、ハンナを軽蔑した人々である。

④救いを喜ぶ (理由の明示)

* 主語は「私」であり、神の介入による完全な介入を喜ぶ。

* 「救い」 = 「イエシュア」

* 終末的救いをも指し示すことばとして旧約全体で用いられる。

(2) 個人的経験が、イスラエルの歴史的経験の型となっている。

- ①不妊＝民の無力さ
- ②出産＝神の介入による回復
- ③敵に対する勝利＝終末における神の民の勝利

2. 2 節

1Sa2:2 【主】のように聖なる方はいません。／まことに、あなたのほかにはだれもいないのです。／私たちの神のような岩はありません。

(1) 3重の類義的対句

①聖なる神（性質）

* 神の聖性は比類なく、被造物から完全に区別されていることを宣言。

②あなた以外にいない（唯一性）

* ユダヤ人の信仰告白の土台である。

* 「シェマー」（申6:4）の延長線上にある表現。

③イスラエルの神のような岩はない（守りと信実）

* 「岩」は、堅固さ・安定・避け所・契約的忠実さを象徴している。

* 申32章や詩篇でくり返されることばである。

I. 個人的な救いの喜び（1～2 節）

II. 逆転の法則（3～8 節）

1. 3 節

1Sa2:3 おごり高ぶって、／多くのことを語ってはなりません。／横柄なことばを口にしてはなりません。／まことに【主】は、すべてを知る神。／そのみわざは測り知れません。

(1) 2部構成の対句

①禁止命令（前半2行）：高慢なことばを語るな。

②理由（後半2行）：神は知識の神であり、行いを評価する。

* 【主】は、完全で誤りなき洞察を持つ方である。

* 「人の行いを量られます」（共同訳）＝公平な裁きを意味する。

* 高慢なことばや態度は、神の義によって必ず裁かれる。

2. 4 節

1Sa2:4 勇士が弓を砕かれ、／弱い者が力を帯びます。

(1) 反意的対句

①勇士の弓は砕かれる。

- *人間の力に依存する者の限界を示す。
- *神に敵対する勢力（終末的には諸国民）の武力も最終的には砕かれる。

②弱い者が力を得る。

- *ペニンナという「強者」に苦しめられたが、神の介入によって回復。
- *個人的な経験は、普遍的適用を持つ。

3. 5 節

1Sa 2:5 満ち足りていた者がパンのために雇われ、／飢えていた者に、飢えることがなくなります。／不妊の女が七人の子を産み、／子だくさんの女が、打ちしおれてしまいます。

(1) 2組の反意的対句

①満ち足りた者 vs. 飢えていた者

- *経済的・生活状況の逆転
- *神の主権的介入による

②不妊の女 vs. 多くの子を持つ女

- *家庭・名誉の逆転
- *不妊の女はイスラエルの象徴。
- *7人の子（完全さ・充足）は、終末的イスラエルの民の繁栄。
- *多くの子を持つ女が衰える＝神に敵対する諸国が没落する預言。

4. 6 節

1Sa 2:6 【主】は殺し、また生かします。／よみに下し、また引き上げます。

(1) 2組の反意的対句

①【主】は殺す vs. 【主】は生かす。

- *人間や偶像には命を与えたり奪ったりする権限はない。
- *死の時と方法も、命の始まりも、神の主権の下にある。

②よみに下す vs. 引き上げる。

- *「よみに下し、また引き上げる」は病からの回復だけでなく、復活を含む。
- *終末における義人の復活も、この神の権威の現れ。

(2) イスラエルの歴史的・預言的適用

- ①死と再生は、国としてのイスラエルの滅亡と回復にも当てはまる。
- ②バビロン捕囚や諸国への離散からの回復は、この逆転の法則の歴史的事例。
- ③患難期からの回復とメシア的王国への復興を指し示す。

5. 7 節

1Sa 2:7 【主】は貧しくし、また富ませ、／低くし、また高くします。

(1) 2組の反意的対句

①貧しくする vs. 富ませる

* 経済的逆転

②低くする vs. 高くする

* 地位・名誉の逆転

* 富や地位は人間の努力や偶然ではなく、神の主権的決定によることを強調。

(2) 地位の変化も神の支配下にある。

①人の昇進や降格、国家の栄枯盛衰も神の摂理の一部。

②諸国民が低められ、イスラエルが高められる預言的パターンに重なる。

6. 8 節

1Sa 2:8 主は、弱い者をちりから起こし、／貧しい者をあくたから引き上げ、／高貴な者とともに座らせ、／彼らに栄光の座を継がせます。／まことに、地の柱は【主】のもの。／その上に主は世界を据えられました。

(1) 前半（人間の領域）と後半（宇宙的領域）の二部構成

①人間社会における逆転（4つの対句）

* 弱い者をちりから起こし、

* 貧者をあくたから引き上げ、

* 貴族と同席させ、

* 栄光の座を与える。

②神の主権と創造主としての権威（2つの対句）

* 地の柱は【主】のもの。

* その上に主は世界を据えられた。

(2) イスラエルの回復の型

①諸国の中で卑しめられていた状態から、メシア的王国における高貴な地位へ

②最終的には、栄光の座を与えられる。

I. 個人的な救いの喜び（1～2 節）

II. 逆転の法則（3～8 節）

III. メシア的預言（9～10 節）

1. 9 節

1Sa 2:9 主は敬虔な者たちの足を守られます。／しかし、悪者どもは、闇の中に滅び失せます。

／人は、自分の能力によっては勝てないからです。

(1) 対照的対句

①義人の保護 vs. 悪者の滅び

* 足を守るとは、信仰の歩みを守ること。

* 闇の名に滅び失せるとは、現世的裁きと終末的裁きの両方にかかる。

②その根拠：人間の力は勝利の条件にならない（結論）。

(2) イスラエルへの適用

①歴史的にイスラエルは軍事的には弱かったが、神の介入によって勝利してきた。

②患難期においても、神が彼らを守って勝利に導く。

2. 10 節

1Sa 2:10 【主】は、はむかう者を打ち砕き、／その者に天から雷鳴を響かせられます。／【主】は地の果ての果てまでさばかれます。／主が、ご自分の王に力を与え、／主に油注がれた者の角を／高く上げてくださいますように。」

(1) 4つの動きで構成されている。

①敵の粉碎（はむかう者を打ち砕く）

②天からの裁き（雷鳴による威嚇）

③全地的統治（地の果てまで裁く）

④メシア的王の高揚（メシアの角を上げる）

(2) メシア的王の予告

①サムエル記の冒頭の時点では、まだ歴史的には登場していない。

②「メシア」（油注がれた者）ということばは、終末的支配者の予告。

③「地の果ての果てまで」は、メシア的王国の広がり予告。

④「角」（1 節）で始まり、「角」（10 節）で終わる。

⑤ハンナの賛歌は、ルカ 1 章のマリアの賛歌に影響を与えた。

結論：今日の信者への適用

1. 神の主権を信頼する姿勢（1～2 節）

(1) ハンナは、自分が経験した解放を「主の救い」と認めた。

(2) 祝福や勝利は、神の恵みによるものである。

(3) 「聖なる方」「唯一の神」「岩」という三重の告白が重要である。

2. 高慢を退け、謙遜に歩む（3 節）

- (1) 神は心の動機まで見抜き、正しく評価される。
- (2) 成功時にも謙遜を保ち、すべてのことを神の栄光のために行う (1 コリ 10:31)。

3. 神の逆転の法則を覚える (4~8 節)

- (1) 個人的な逆転の法則
- (2) 普遍的な逆転の法則

4. メシア到来と最終的な勝利の希望 (9~10 節)

- (1) ハンナの賛歌は、終末的希望を詠っている。
- (2) 現在の試練や争いも、最終的には、メシアの完全な支配の下で解決される。